

会議議事摘録

会議名	2024 年度第 2 回学校関係者評価委員会
開催日時	2024 年 10 月 26 日（土曜日）10：00～12：00
場 所	本校 8 階 図書室
出席者 (敬称略)	①委員：赤塚敦子（看護関連業界関係者）、石川幹夫（卒業生）、黒田江里（保護者）、齊藤つばさ（くすり関連業界関係者）、篠塚 功（医療事務関連業界関係者）、藤井寿和（福祉関連業界関係者）、森川雅彦（高等学校関係者）（計 7 名） ②学校：川口拓也（校長）、前田律子（副校長）、榊原幸之（事務局長）、村山由美（医療秘書科学科長）、石澤雅子（医療秘書科副学科長）、川畑亮子（医療事務 I T 科学科長・診療情報管理科学科長）、渋谷大樹（くすり・調剤事務科学科長代理・教務委員長）、松田朗（介護福祉科学科長）、伊東由美（看護科学科長）、光本文仁（キャリアサポートセンター長）、宗像秀樹（広報室長）、杉本拓朗（学生委員長）（計 12 名） ③委員会事務局：土屋瑠美子、土方雄太（計 2 名） （参加者合計 21 名）
欠席者	結城久美子（くすり・調剤事務科学科長）
配付資料	事前送付資料： 資料 1：2024 年度第 1 回学校関係者評価委員会議事録案、□資料 2：2024 年度第 1 回委員会以降の主な経過報告 別添 A：2024 年度内定率・内定先・求人数状況、別添 B：2025 年度生募集状況、別添 C：2024 年度教員研修計画・実績、別添 D：2024 年度前期授業アンケート集計結果、資料 3：2024 年度学校関係者評価報告書案、資料 4：2023 年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取り組み（中間報告）、資料 5：2024 年度重点目標と達成するための計画・方法（中間点検） 当日配付・閲覧資料（下記■は当日、PC にて閲覧可）： ■学生生活ガイド（6 学科、看護科）、 ■2024 度講義要項（全学科）、 ■各種検定・資格試験取得率、 Challenge 就職活動ノート、 2025 年度入学案内書、 2025 年度募集要項（6 学科、看護科）
議題等	1. 校長挨拶 温度差が激しく、学生の中にはマイコプラズマや溶連菌などで公欠の者も見受けられるが、ようやく落ちついてきた。 前期が終了したが、大きな問題はなく予定どおりの教育活動ができている。世の中が大きく変わり、人材の奪い合いが起きている。今日はそういった観点からのご意見をいただき、教育活動の改善につなげていきたい、との挨拶が行われた。 2. 前回委員会議事録の確認（資料 1 参照） 事務局より前回議事録案について確認したところ、委員から特段の意見はなく、個人情報に留意して公開することが承認された。

	3. 2024 年度第 1 回委員会以降の主な経過について（資料 2 参照） 事務局長、キャリアサポートセンター長、広報室長、教務委員長、委員会事務局より、資料 2（別添 A～D を含む）に基づき報告し、確認、了承された。委員からの質問・意見及びその回答は別紙のとおり。 4. 2024 年度学校関係者評価報告書案について（資料 3 参照） 委員長より、本委員会からの意見とそれに対する学校の検討事項を重点に意見を求める形で進められた。報告書案に対する質問・意見及びその回答は別紙のとおり。 5. 2023 年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取り組み状況報告（中間点検）（資料 4 参照） 資料 4 に基づき質問・意見を徴し、確認、了承された。委員からの質問・意見及びその回答は別紙のとおり。 6. 2024 年度重点目標と達成するための計画・方法（中間点検）（資料 5 参照） 川口校長より資料 5 に基づき別紙のとおり中間点検報告が行われ、確認、了承された。 7. 委員総評 出席委員より、別紙のとおり総評があった。 8. 意見交換など 委員から意見・要望について意見交換を行った。詳細は別紙のとおり。 9. 次回日程、その他 事務局より、次回は 3 月 1 日（土）10 時からの予定で調整しているとの報告があり、了承された。
--	---

以上

2024 年度第 2 回学校関係者評価委員会の主な討議内容

次第 3. 2024 年度第 1 回委員会以降の主な経過について（資料 2 参照）

○榊原事務局長、光本キャリアサポートセンター長、宗像広報室長、渋谷教務委員長、委員会事務局より、資料 2（別添 A～D を含む）に基づき報告が行われた。（報告の詳細は省略）

○委員からの質問・意見と回答は次のとおり。

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
退学が減りとてもよい状況だと思う。 ①美容整形への就職がないが、学校側の指導か、学生本人が希望をしなかったのか。 ②スポーツ系がゼロから 65 に増えているが、どういう企業から求人が来ているのか。 ③病院事務系でも調剤事務が増えているということか。 ④経済的に困っていて奨学生を希望している学生は例年同様 6 割程度か。もっと増えているか。 ⑤授業公開の教員の参加者に変化はないか。 ⑥アンケートの回答者は何名で、在籍者数の何%になるか。 ⑦アンケート評価の数値は概ね 3.5 から 4.0 の間だが、看護科の 2 年生が全体的に低いのは毎年の傾向か。その理由は。 ⑧自由記述において特に注意すべきものはなかったか。	①特別に何かしたことはなく、たまたまいなかった。 ②スポーツジムのインストラクターなどである。 ③大幅に増えている。 ④無償化を使う学生と JASSO（学生支援機構）の奨学生を足すと、半分を少し超える。今年度もほぼ同じだが、無償化により 4 年制大学に流れる動きが強まったことを痛感している。 ⑤ 2 回以上の授業参観を依頼しているが、時間確保の関係から後期に偏っている。 ⑥当日授業を欠席した人は回答していない。各学科によって実施方法等が異なっているが、前期の回答率は 80%となった。 ⑦毎年の傾向かと思う。授業の難易度が上がると、「分からない」、「教え方が悪い」となる傾向がある。 ⑧大きな変化はない。教員に対する好き嫌い、内定が決まった学生がやる気を喪失して、マイナスの意見が出る傾向がある。 問題になるような発言は特になく、感想や要望が多い。教員に伝えて、授業の中身を改善できるように工夫している。 当科は今年からタブレット授業になっているので、「スライドのデータが欲しい」、「カラーに

①退学者が減った理由の中に、1年生に対するメンタルヘルス講話、担任とカウンセラーの懇談会など、学生だけでなく教員へのフォローをしていることは評価できると思う。 ②募集面について、専門学校全体の問題としてどう打開していくか、一緒に考えていきたい。 ①介護福祉科で外国人留学生の出願が7割を占めているが、学科運営が難しくなっていくような印象を持つ。今、1年生で留学生は何人いて、日本での就労を希望しているのか。 ②介護の現場で、外国人就労者に対する期待や不安をどのように感じているか。	なって見やすい」など様々な意見があった。 留学生が多いので、話すスピードなどにリクエストがあった。講師も含めて情報共有をしている。 特定の講師に向けてという部分は若干あったが、例年とそれほど変わりはない。 ①定員30名の約半数の14名が外国人留学生で、全員が日本での就労を希望している。 ②特定技能で入ってくる人と専門学校教育を受けた人では決定的な差がある。外国人に教育をしてもらえるのはすごくよいと感じている。 介護の現場では、礼拝する場所やカフェをつくるなど、外国人の宗教的な部分や生活を考えながら運営している施設が出てきている。 外国人に限らず、他の仕事を経験した後に介護に就くというパターンで成功している例が多くなった。
--	---

次第4. 2024年度学校関係者評価報告書案について（資料3参照）

○委員からの質問・意見と回答は次のとおり。

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
・学校関係者評価の記載の仕方について、継続して進行しているものと、今年新たに出てきた意見に対する対応がもう少し分かりやすくなるとうい。内容については特にない。	・ご指摘のとおりだと思うので、来年度、記述の仕方については検討したい。
・社会人既卒者向けプログラムについて教えてほしい。	・3か月のプログラムで、ハローワークから紹介されてくる離職者訓練を行っている。年4回の計画

次第5. 2023 年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取り組み状況報告（中間点検）（資料4 参照）

○委員からの質問・意見と回答は次のとおり。

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
・募集に関連して、特に今年度力を入れて取り組まれていることを伺いたい。	・本校の学校名を知ってもらうことが一番大事だと思う。SNS 関連は大事にしているが、それだけで進路活動をする高校生は少ないと思うので、受験サイトへの出稿やホームページでの発信に力を入れているほか、高校ガイダンスに参加するなど、高校との関係性を強める活動もしっかり行っている。

次第6. 2024 年度重点目標の取り組み状況報告（中間点検）（資料5 参照）

○川口校長より、以下のとおり報告があった。

(1) 学生確保

医療福祉分野に高校生が目を向けなくなっている。学校だけでなく、病院、企業、福祉施設等が手を取り合って、この業界の魅力を発信していくことが重要だと思う。ぜひご支援いただきたい。手前みそだが、本校はよい取組を行っていると思うが、その発信力が弱い。今後は教育以外の取り組みやアクティブラーニングの取り組みなどをSNS で広く告知していきたい。

(2) 社会人・既卒者向けプログラム

社会人は2、3 年働かずに学ぶことは難しいので短期のプログラムを用意している。登録販売者も3 か月で取った人がいる。アルバイトからでもよいので採用していただき、よければ本採用につながっていただきたい。

(3) 日本語学校との連携

将来的には、日本の医療、福祉は日本人だけでは回らない時代が来るかもしれない。本校の留学生は、今は介護福祉科が多いが、他の学科もトライアルをしてノウハウを蓄積していきたい。本校は少なくとも日本語学校を1 年経た者を入れている。

次第7. 委員総評

教育内容、学生の生活面等に対する心のケアを含め、すごく丁寧に支援されている。これを学校の強みとして継続していただきたい。

応募する学生が減少しているのは社会全体の課題だと思うが、協会も含め様々なところで、看護師や医療人になりたいという人が少しでも増えるよう働きかけていきたい。

退学者が減ったことは、学校の面倒見のよさが如実に表れた数字だと思う。募集に関しては、私とその周りの狭い範囲の話にはなるが、高校が専門学校を進学先に挙げてくれない。4 年制大学に行くのが当たり前のようにになっているが、子供たちの選択の幅も狭めてしまう。親としては、技術や知識が必要な仕事は専門学校のほうがよいということを知ってもらいたいと思う。

毎年説明会に伺って、学生の明るい表情、先生方とフレンドリーに会話をしている様子を見て、本当にいい学校だなと感じているので、この学校の良さをもっと発信していただければと思う。ドラッグストア

業界の人間として働く場の魅力を広げていきたいと思うので、今後とも連携、協力をお願いしたい。

退学者も減り、資格試験の合格率も非常に高い。授業アンケートの結果からも学生が学校に対して反抗的な意識がなく、好意的に見てくれていることが分かるので、先生方の努力はすばらしいと思う。

募集については心配だが、一度社会に出ていろいろな社会経験を積んだ人に、医療・福祉業界に目を向けてもらうことも大事だと思うので、社会人を取り込んでいく取り組みは続けてほしい。

就職した卒業生がどれぐらい力を発揮できているか情報収集をして、発信するとよいと思う。私も都内の医療法人や社会福祉法人に関わっているので、専門学校生をどんどん採るように働きかけていこうと思う。

今までは先生方の人柄が売りなのかなと思っていたが、新しいことにチャレンジしていく姿も学校としての売りだと思う。

きれいな建物や施設は一つのメリットだが、評価委員である私が見きれていなかったぐらいなので、うまく伝えていくとよい。

SNSには、動画や先生方の表情などから得られる安心感があるので、継続していただきたい。

何十年も前に海外に渡った人が高齢者になり、介護で困っている現状がある。介護福祉士がニューヨークやハワイで働ける時代になってきていると考ええると、留学生を含め、グローバルな要素がある専門学校を目指すもよい。

介護福祉士の魅力として、100%就職は当たり前で、その10年後の30代、40代から面白くなる職種だということを伝えていただきたい。

教育環境、資格取得、就職状況などを細かく見ると、こんなに良い内容の教育をしているところは珍しいのではないかと改めて思った。

学校関係者としては、やはり募集関係が気になる。本人や保護者への対応も重要だが、高校側の進路指導の先生にも業界や仕事の内容を知らない先生が増えてきている。教育産業やエージェントを巻き込んで何とかならないものか。人が集まらない業界に目を向けてもらえるよう、微力ではあるが取り組んでいきたい。

昨今の募集状況にどうしても目が向いてしまう。教育の中身と高い教育実績が、入り口である募集に結びつく好循環を生み出す施策について、検討を重ねていただきたい。

以上